



泰不都家奉記

夏

三

奉

五
四
札

ル 4
5102
3



門ル4
號5102
卷3

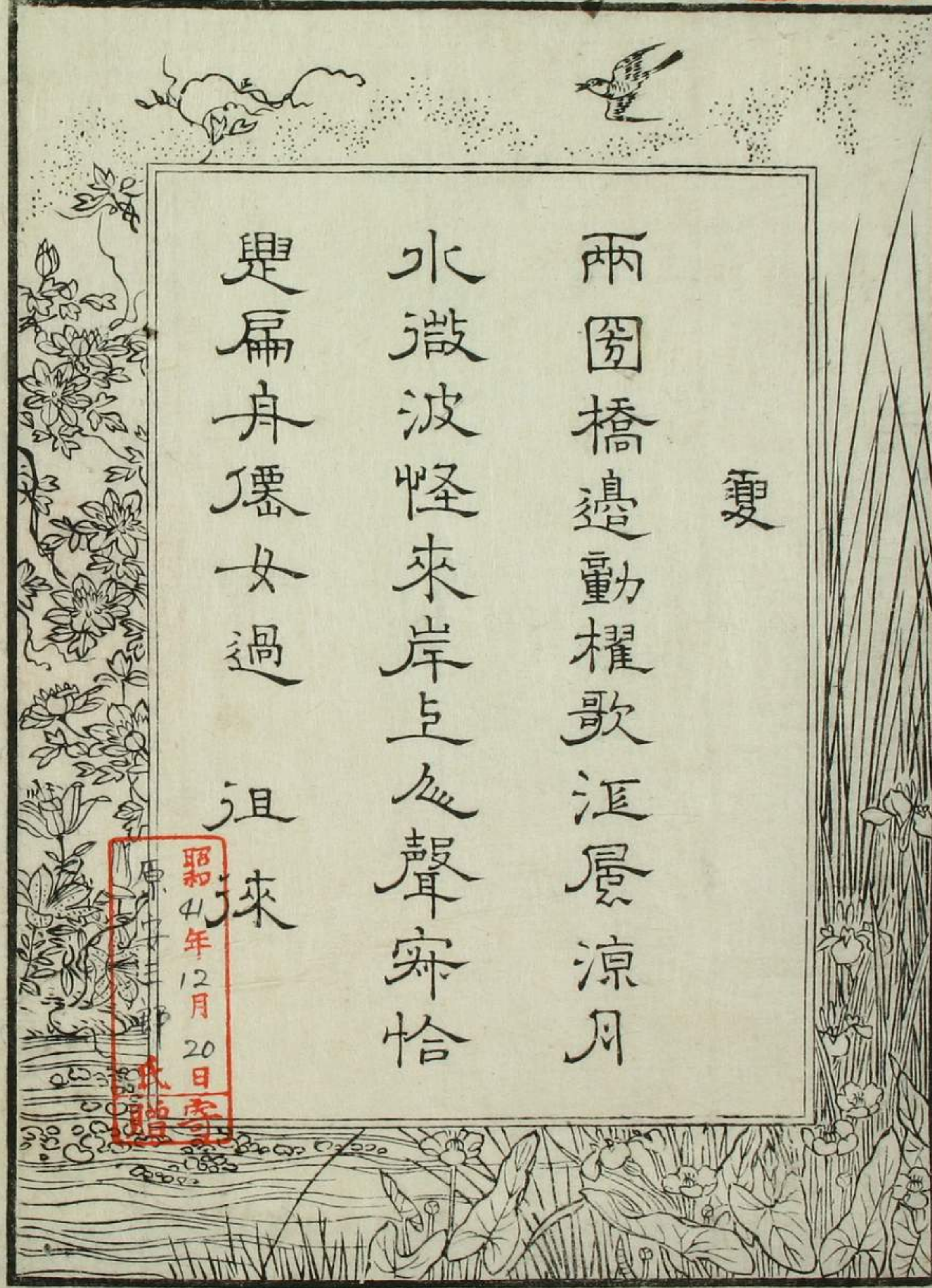
夏

兩囿橋邊動櫂歌
江屋涼月

水微波怪來岸
上聲寂恰

豊扁舟孺女過
且來

昭和41年12月20日



江戸歳事記卷之二夏之部

四月

朔日

○更衣 今日より五月四日迄貴妙袷衣を着き今日より九月八日まで区袋と
さうげ庶人草羽織と云々

○龜戸天満宮雷神祭七日迄修行

本宮の雷神を祀り加半巨美作となり雷難除と
なり今日より八月毎日迄雷難除のちれと云々

○深川靈巖寺弥陀經子部十日まで修行也

この間乃俗
業法なり

○茶の湯者よりより燵と塞いで風呂と用不組一九月晦日又む

初子日 ○版倉順了寺大く祭

○山岩去下合方務前社外花祭里況町と坊々舞仕儀持立林住と持とあり

初卯日 ○鉄炮洲漆稻荷社祭礼

稲荷寺の隣の磯あり
午の日迄多活あり

初午日 ○筑地稻荷社祭礼

執事若徳院より稲荷と云筑地の町の法寺と南小田原町
より竜虎の政と獅子政の如くは修りなりと云々

三日 ○奥澤村淨真寺 九品 弥陀經千部十二日迄修行也

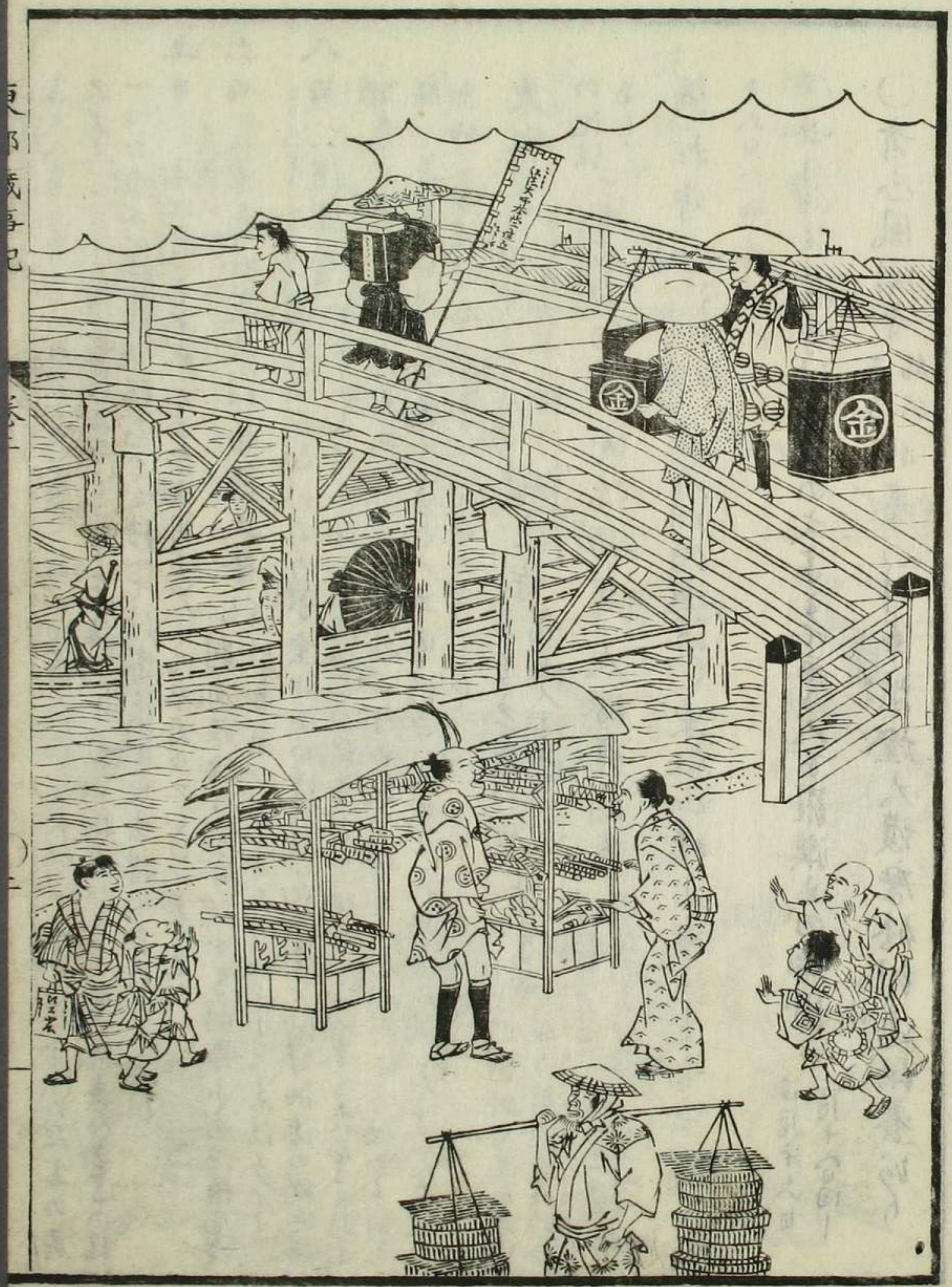
本芝村本町の南
本芝村本町の南

の目送り花の石燈を掘くこの香羽屋の先祖之存存あり妻難産あり死せしを其妻
之存存あり伊豆子大田寺の平化月峯う差中小貴て云存存生の時冥冥珂碩上人の
化益を乞うと云々不果して死ぬ今ハ血の池の苦しみと云々一何卒子の事なり



東部歳事記

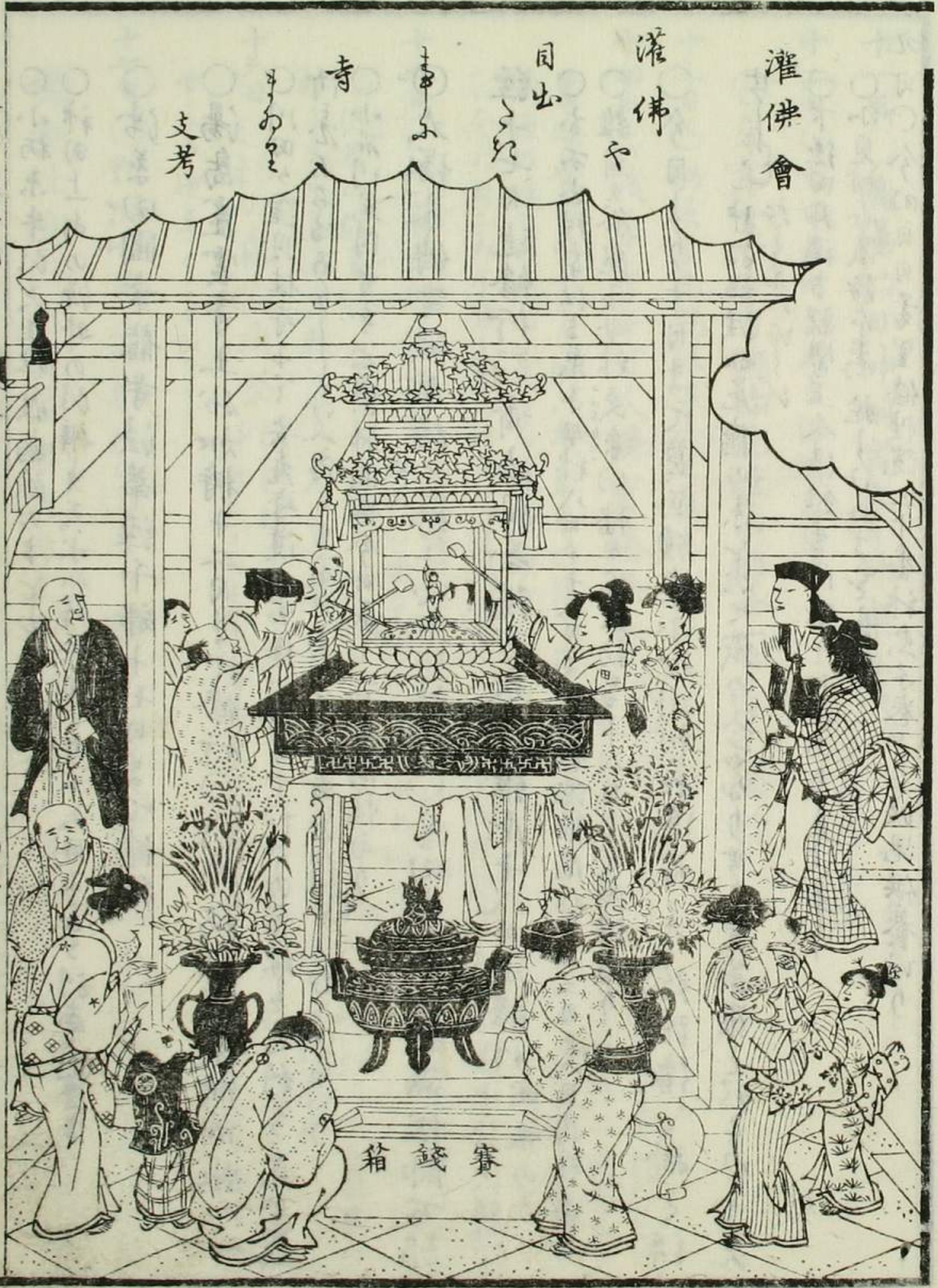
卷二



本政二年ありて
ち山門にハラス修
ノ正元

上人へ若くまうと二松夏見しうの不思議の事
又上人はまうとてこの事をも上人講に十念と授けし
一つの帷子と独せり今程高きと傳へて付室とて七月出陣の儀
五日 ○赤羽有子家水天宮東毎月とてとも正月由を
六日 ○東島西芝又村帝釋天祭礼 別題題経る今日板本
八日 ○灌佛會 諸宗も院動あり本堂中又ハ境内に花の
と煮て佛に供へ外の花とて又外に外の花とて
東叡山 法華寺少修 増上寺 本堂中ハ概ハ内
の北法 本布回向院 同弥勒寺 大塚護國寺 護持院
海松寺 輪花と雨て 小石川波通院 ○東叡山増上寺
十六日の如し

○小日向於真寺法花經の文字を画し六百羅漢の像掛る
二月十六日
○青山鳳園寺 順峯の神車紫燈大護摩修り
二月十六日



東都廟事記

卷二

二

灌佛會
寺
目出
支考

箱錢賽

○小柄系牛馬天王社殿病除の事と出す

○神田上水の源井の以辨才天水加持今日より十六日又五ヶ所南大盛寺

○法華田圃幸龍寺法華經千部十七日まで修行

○湯島靈雲寺土砂加持十二日まで修行○新井梅照院茶師雨帳

○川田窪月桂寺安産守護の宝珠と津せしむるの宝珠と足利氏公乃所奉不持ありしと云ふも近日より約しむるに津せしむるにあり

○小石川米田寺本薬師雨帳今日茶十二日も雨帳あり

○大塚本傳寺法華經千部十四日追修行○高田本松寺願満祖師百部

經十七日追修行○青山仙臺院万巻陀羅尼十八日追修行十八日六祖師雨帳あり

○本不出村本仏子鬼子母林八日十八日まで万巻陀羅尼八日十二日十八日内拜あり

○雜司ヶ谷鬼子母林又衣○幡ヶ谷不動尊十八日まで内拜あり

○今日より十日まで葛西願東小松川村后通寺より弥陀像を掛く津

廿一申子姫法如尼藕の糸を以て織りしむるに世々曼荼羅と稱せしむるに

○下徳田妙福寺観音上人法親堂雨廊十日追あり奉法事

○小見村秋夜佇在志蛇つけの事と出す

九日○今日同日里修性院三十番社子巻ごうに児供養あり

十一日○橋場約日神明宮太々神樂無事○昨日今日麻布坂下町東廣稲荷祭

十二日○本不表町本之寺祖師衣替

○本不靈山寺阿弥陀經千部廿一日まで修行

十三日○法華寺先院法事山王祭

十四日○浅草寺十万人講寶塔供養於本坊心齋あり一山懸出仕を勤むるの法會と享保年中本寺普徳の時寄をの

業供養のゆゑに同六年本堂の後ろの三層塔と云ふ事あり今日本堂より續經の後ろの塔のまゝ焼香あり

○今日二太才願本賣村西光寺親鸞上人御影堂雨帳都下より奉法事

十五日○山谷玉姫稲荷祭不動院持産子の場本神輿獅子吹と波き境内僅なれども

○浮屠の結夏又安今日より始り制と云七月十六日よむて終り又解夏九十日禁裏にて外に出る者本虫類とやふんりて厭ふが故なりと云○高輪半町稲荷祭

十六日○杉の森稲荷祭杉林本町に在神主小町氏産子、杉林本町杉本町杉田町町二丁目庄介屋敷長六郎屋敷等なり隔年浮り物成り

せう近奉るるなり

十七日○野刈日光山御祭礼の日なり諸侯紅葉山東叡山御宮へ御参詣あり

諸寺社境内御宮法樂あり又ハ御神影と拜せしむ上野ハ庶人奉侍を拜せしむるに

聊齋志異

端午市井圖

武江已歷
四端午佳
節時々憶
洛城角糝
曾聞化龍
去世間斯
類復何驚
活所



巧

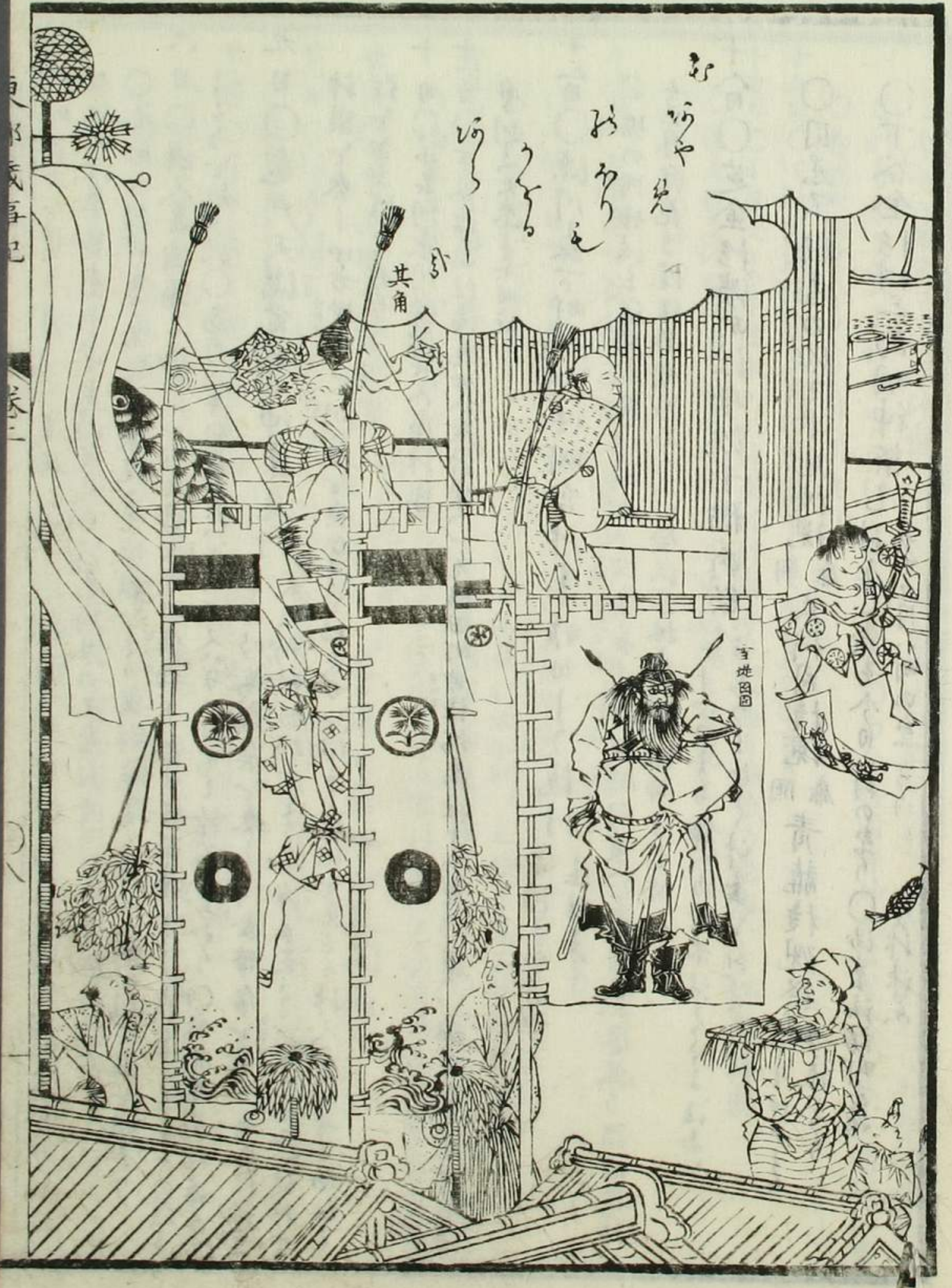
巧や

巧や

巧

其角

官地



宋院と無引すありし今も故きを村商人市を乞ひ

女三目 ○ 沙系親善其の茶中て女三程の膳程 ○ 未改町町修善勢玉園帳

女四目 ○ 本布押上普賢菩薩帳十部経修引多礼 ○ 雜司う谷家場も子春院羅尼源法

○ 沙系大川橋子系花川戸町角三坊程の石焼修念佛修引

○ 鈴ヶ森尼神祭廿二日より執引二月の如し

○ 南八丁堀起若波河を流すより夜露降の如しと申を申すより祥集と云はれし

女六目 ○ 小石川牛天神祭礼 別高院門寺廿六座の神樂無引

○ 同系町天満宮什樂引高院泉寺

○ 揚弓結改惣會 右板結界も作をも非なり結改もも圖と結ひ改の獨り

車は二度無引も山の多し輩ハ山王宮院下舎一下まの輩ハ女小迎の儀樓も是り

猪劣と争ひ猪まてと定て江戸一と猪手結改一表夫員二百本あり申す布六十本以上も

朱書百本以上も泥書百本以上も令員百八十本以上も大令員とのを結改一

をハ貞享六年刊まる本の今井一申す作の揚弓射礼書と目今初るハ一の書も

天文十八年述作の揚弓射礼蓬矢抄と云へるは注解と加へるは書つて後述作

貞享の比江戸射場橋町三丁目鈴木三意一計漫島天神門前柏原家と申す河原寛延

の江戸麻子申す結改場と云ふ本と申すり高時結改場山の多し二下町と申すあり

別本小記も如し

△下町八幡宮祭夫も後町雲好芝末羽根以末羽應△山の多し八幡田町桂風牛込義好

女三目 ○ 牛込五福宮十八日神樂無引

女八日 ○ 目黒不動尊祭禮 女日比より賑々多し ○ 白金三橋坂下管森林の宮祭も

焼てより宮居さへ形もよりありて多礼改り有

○ 牛込系町報恩寺不動尊同帳 ○ 駒込進分裏頭寺大正同本不動尊同帳

○ 入谷系院鬼子母林寺卷院羅尼 ○ 白金土筆系雷電宮系雷除の多礼出城

○ 三芝居曾我祭 中古まて今日樂居も於て多礼と執引ひしとより今ハ曾我

お傍り無引する時と例年曾我表社の神楽とは切場と云ふは居ても是と云ふは都

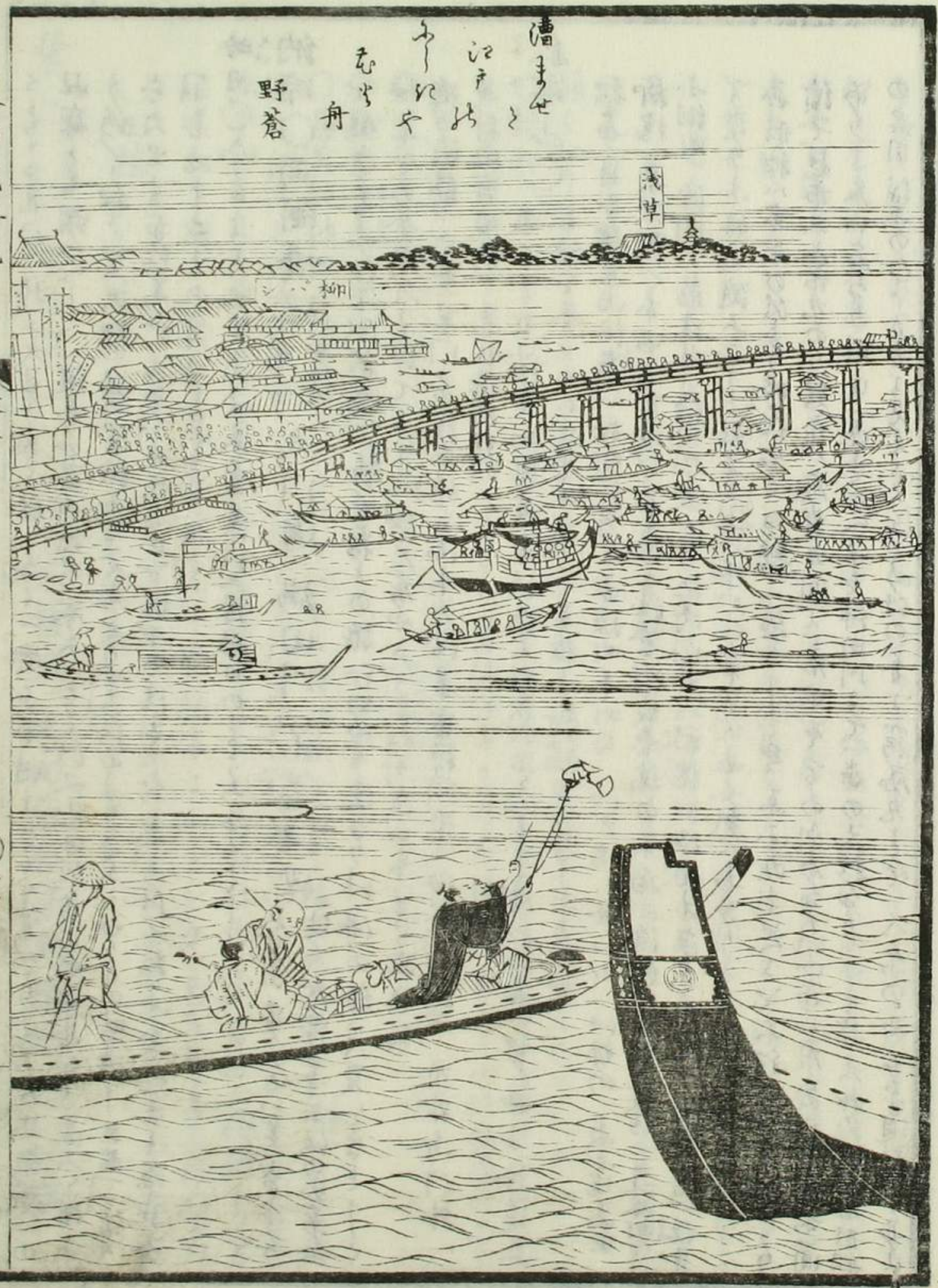
奇跡にも毎春曾我お傍りと云ふは住持お傍り報賽の為今日も是と云ふは

○ 支子橋の夕涼会より始り八月廿八日終了是も系居者せお傍りの始

りして今夜より花火ととりて逐夜貴賤群集也

此地も同の番思ふより中おも納保の如の賑々多し小たがひたがひ方ハありし事也

頁部或事記



漕
 江
 舟
 野
 蒼

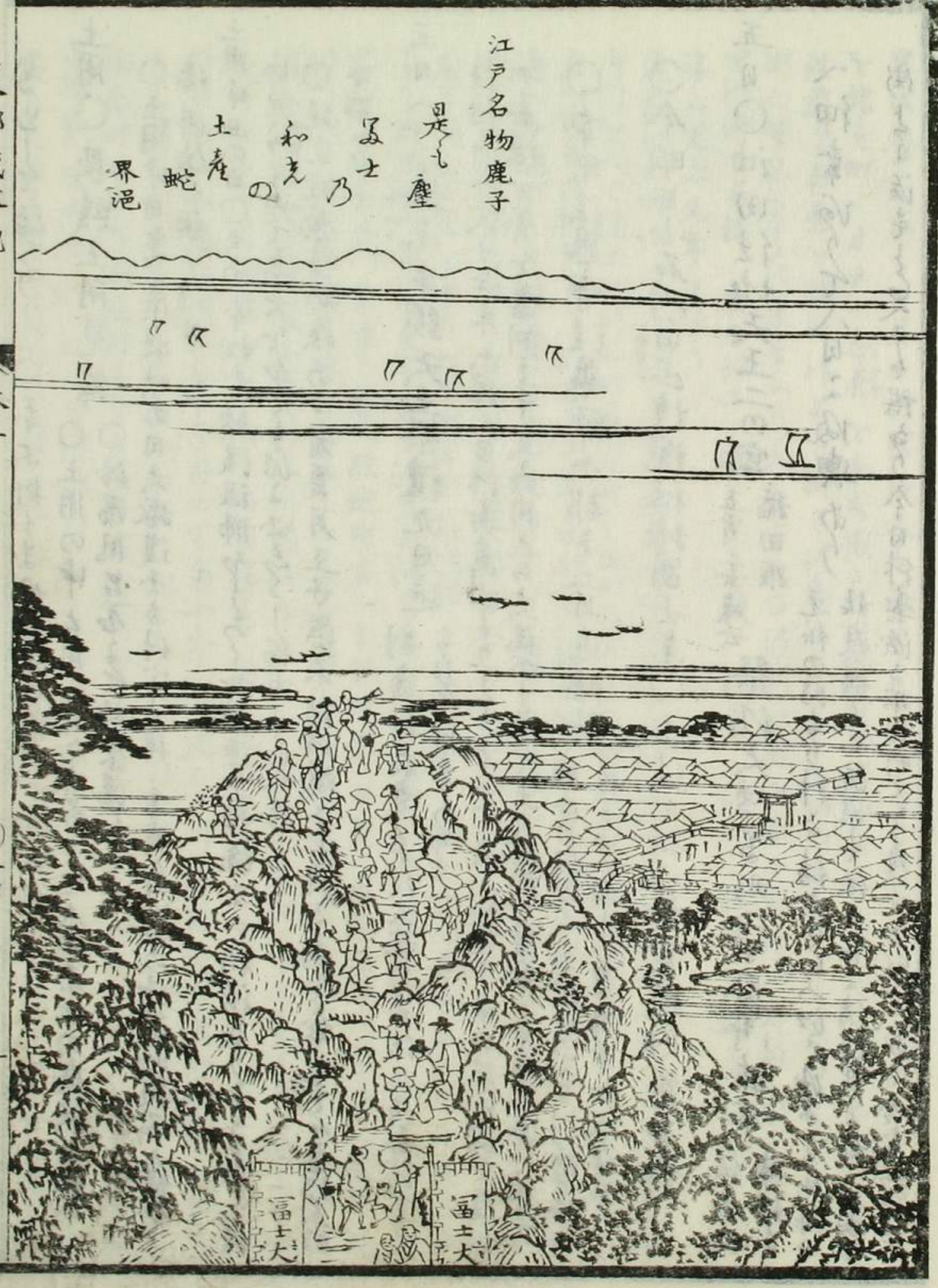


長橋三百丈
 影偃綠波中
 人似行天上
 飄々躡玉虹
 白石

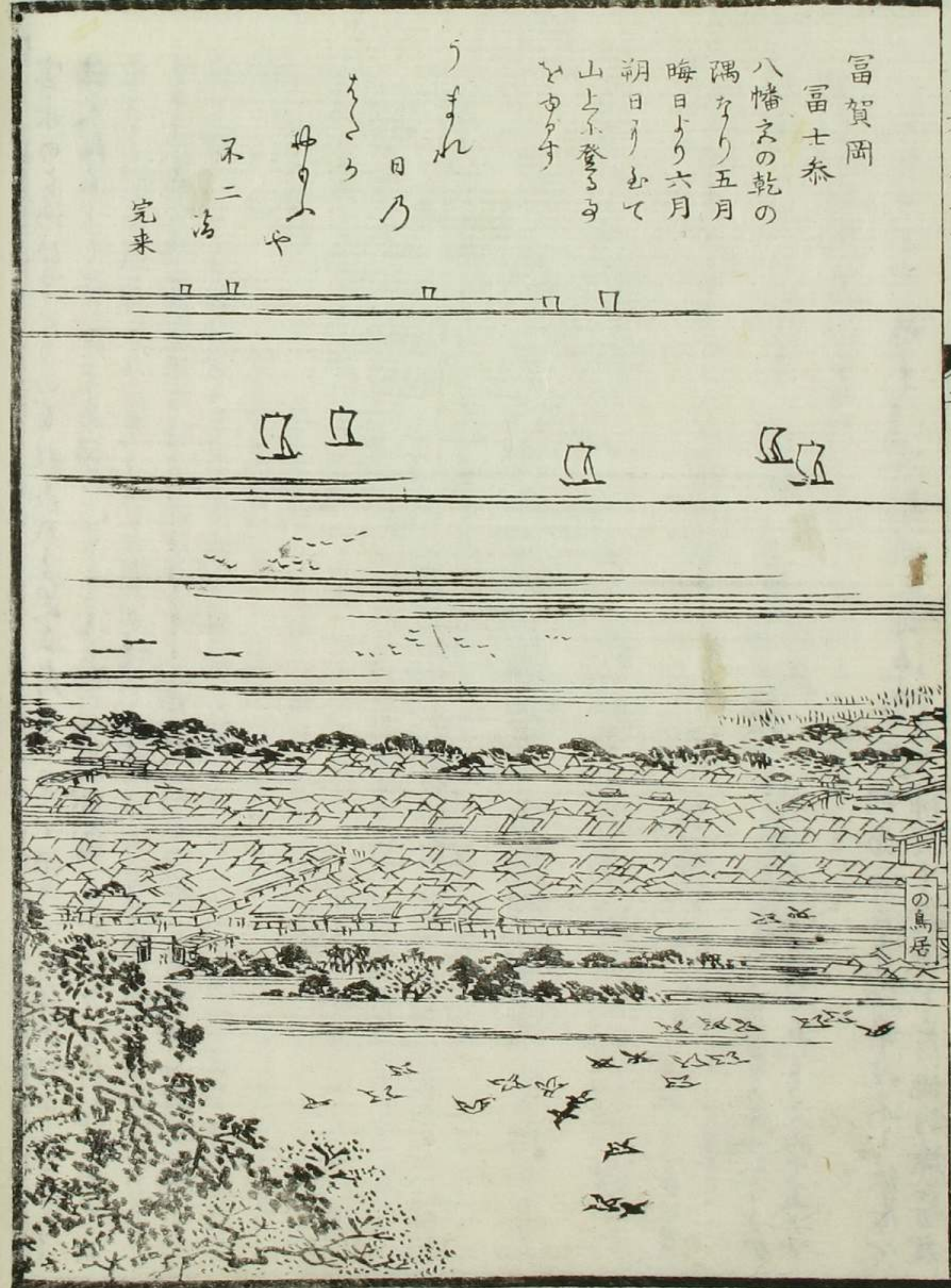
兩國納涼

所本

東
 野
 舟
 事
 記



江戸名物鹿子
 是も塵
 富士乃
 和光の
 土産蛇
 界滬



富賀岡
 富士叅
 八幡文の乾の
 隅なり五月
 晦日より六月
 朔日よりむて
 山とふ登る事
 とやふす

うまね
 日乃
 不二
 完来

網或や

乃

利

大男

宇月

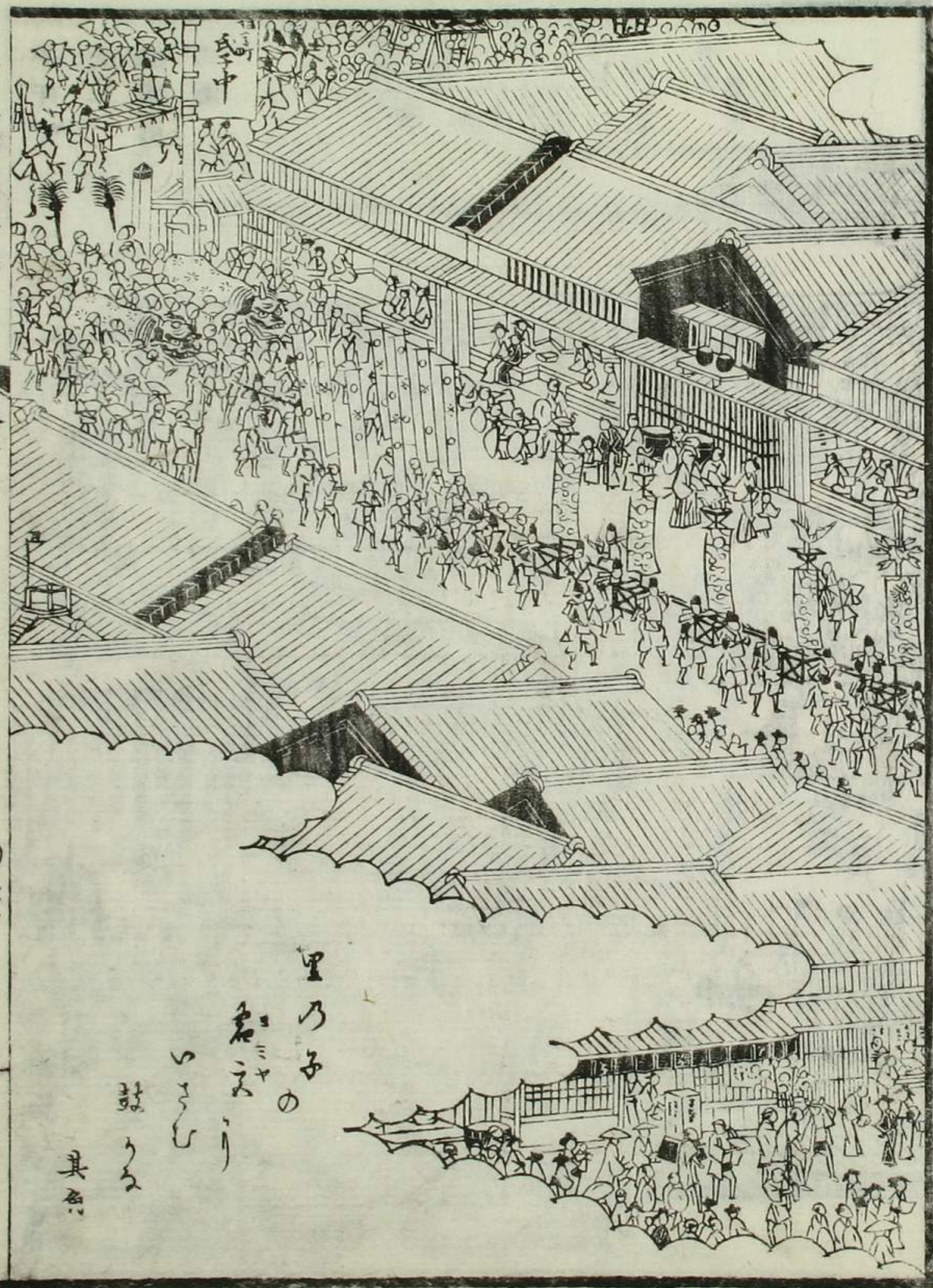


本社と出で、此處を通東少へ先旅務町二丁目迄同丁より出居り同丁二日目の圃
 如く曲り浄念寺門前左へ新堀堀をり書留所出居り同後より同圃の圃
 二通り後後町新旅務町と通り新堀堀小橋渡り書留院門前二筋町茶色なる元
 居旅務町中通りなる新堀堀の傍通と通り書留院門前二筋町茶色なる元
 居旅務町小橋渡り池田町茶色なる元居旅務町二丁目代地通同片町代地南曲り
 左へ新堀堀をり出居り尾町通同圃の圃出居り大をりと角へ本六丁目代地と芽町二丁目
 の圃如く出居り浄念寺門前形の内出居り芽町二丁目第六天門前より新堀堀迄同圃
 より出居り下平をり同圃の圃出居り下平をり同圃の圃出居り下平をり同圃の圃出居り
 と芽町二丁目代地の圃出居り第六天門前より芽町大通り同圃の圃出居り同圃の圃出居り
 たりへ後井町二丁目へ上平をり同圃の圃出居り後井町二丁目通同圃の圃出居り同圃の圃出居り
 通より少同圃二丁目二日目の圃出居り尾町通本社へ還雲あり浄念寺終りて社家の後居り迂
 まりて翌九日夕七時本社へ返あり

九日○浅草鳥越明神祭禮

八日より旅へり別當長樂寺林之瀧本氏 古来高月
 十日より中古改て九日と以寛政八辰年迄八毎年産子

の町より出で、浄念寺門前左へ新堀堀をり書留院門前二筋町茶色なる元
 居旅務町中通りなる新堀堀の傍通と通り書留院門前二筋町茶色なる元
 居旅務町小橋渡り池田町茶色なる元居旅務町二丁目代地通同片町代地南曲り
 左へ新堀堀をり出居り尾町通同圃の圃出居り大をりと角へ本六丁目代地と芽町二丁目
 の圃如く出居り浄念寺門前形の内出居り芽町二丁目第六天門前より新堀堀迄同圃
 より出居り下平をり同圃の圃出居り下平をり同圃の圃出居り下平をり同圃の圃出居り
 と芽町二丁目代地の圃出居り第六天門前より芽町大通り同圃の圃出居り同圃の圃出居り
 たりへ後井町二丁目へ上平をり同圃の圃出居り後井町二丁目通同圃の圃出居り同圃の圃出居り
 通より少同圃二丁目二日目の圃出居り尾町通本社へ還雲あり浄念寺終りて社家の後居り迂
 まりて翌九日夕七時本社へ返あり



里乃子の
 鼓の
 其系

六月五日
 大傳馬町天王
 御旅出の圖



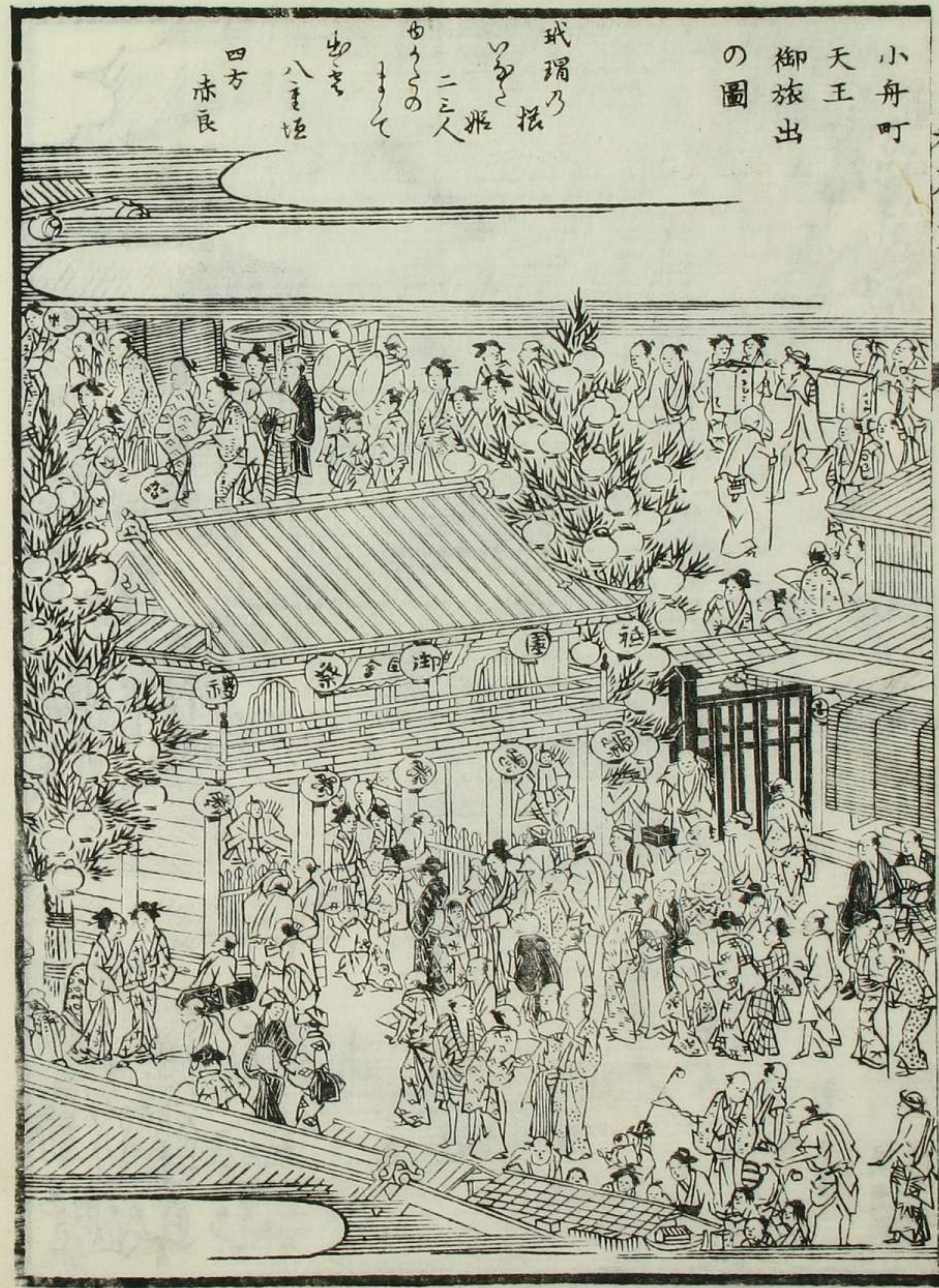
まよりの
 寺代より
 あらうの
 まよりの
 まよりの
 まよりの

祇園迎神會
 大傳馬町二十日
 若者中



小舟町
天王
御旅出
の圖

戒瑞乃
由うらの
二三人
物さ
八重垣
四方
赤良



夙歲古神
 祠不知何
 歲移應是
 巨靈小瀧
 尊欲與時
 南記



六月廿四日
 芝愛宕社
 千日赤



○不川妙玉出掛古文書を外備什巻と評せしむ
廿九日○沙草寺盃蘭盆會 一山の荒徒親世音堂ありしつゆあり
雷津門の希に施儀鬼棚と設く

晦日○夏越の後 同月河ま六 檜場神明宮 社希の川辺に於て執事あり法人
同月より 群集を去の半刻に終る

佃崎宮吉明神社 芝神明宮 神田明神社 新川太神宮

鳥越明神社 八条天神宮 飯田町世経稲荷社

○外備神社より河津を渡河と奉一社樂無のあり社を終りて美治の聖堂の
論と越へし河辺に隔りたる所を盃と水とありて美治川に比せり

○は日麻人紙を以て衣類の形に切て振りのこり川へ投ぎ

○沙草寺花構 已の刻を奉へ別當大氣也出仕あり

○今日より七月晦日は至る迄家々戸外に燈籠桃燈籠を
とせしむりも院に燈籠ありしと○午向燈籠賣出

○今朝より吉原仲の町西側の茶屋少く家毎に松の燈籠出出す

奇麗とゆへし後夜とゆへ人お花禽獸の形或は山鳥の風車と作りたりと
又ハ遊遊は師遊女の乃中正月同日目物のま飾輪轉一毎舞鼓吹して舞囃人
よりのち一廊中燈籠の始り八箇町中百字のな枝玉菊といふう之四忌の追薦日

景物

とて享保十三年の七月上旬の切子せうろりと出たり又ハ破笠といへる者の
巧し始りて今の如き壯觀といふまゝりといへり玉菊は信長書よ出て世人の知る名
かりありしと云ふ

蓮 ○小暑の辰 不忍池 東都第一の蓮池なり花葉あけりて水面を屋蓮葉宛と
すは地は道邊を妙善天の洞環梅戸多く毎夜花葉版を傳ふ高木の名産と云

赤坂溜池 不忍池 同所門外 市谷門外 牛込門外 増上寺

中芙蓉洲 同所の小丹多の池

牽牛花 ○和く桂木屋 吉崎村百花園 在外あり

文化の末よりは花の奇品と説ぶる世に名花も隨てあり又ハ桂木屋
は巧みして千態万色ありては物初一都鄙の好人もまがみ小遊をまうけ早且り
教多の習ふと携へるに優劣と云ふありては名と儲けぬりも形はくしくも
多くハ異株のりありて愛玩するに足らぬは五年の宮より文政の始より絶し
宜なり○往是の宛於桂葉あり

紫葉 ○武蔵野より自然已生のもの多かり今ハ畑工作り春分種と保一夏同白花
花を 形核板に似く少く秋より実のり冬より根を振り新し
江戸中より名物なり今を小しと云ふと里根と種一要別有津社より江戸運送する
りのと心根と種を除法より出内も薩州奥州最上より出るとすとす

